

令和8年度 第2回羽島市社会教育推進審議会 会議要旨

日 時	令和8年7月14日（火）午前10時～午前11時
場 所	羽島市役所3階 301会議室
出 席 者	（社会教育委員）出席者8人 小森 博昭 委員(スポーツ推進会議代表) 服部 憲雄 委員(子ども会育成協議会代表) 堀 登司仁 委員(文化協会代表) 丸山 靖生 委員(小中学校長会代表) 水谷 千枝 委員(羽島市レクリエーション協会代表) 渡邊 修 委員(コミュニティセンター館長会代表) 高砂 房子 委員(学校法人高砂学園代表) 二村 玲衣 委員(学識経験者) （事務局） 伊藤 佳津子（市民協働部長） 高田 裕彰（生涯学習課長） 柴田 泰宏（スポーツ推進課長） 番 重宗（図書館長） 牛田 紗耶香（生涯学習課長補佐） 林 朋恵（同課主任）
内 容	1 開会 ・資料確認 ・会議開催成立の報告 ・会議公開及び傍聴の有無の報告 2 委員長あいさつ 3 議事 羽島市生涯学習・スポーツ推進事業の進捗（令和7年度実績）について 資料に基づき、事務局より令和7年度実績を説明。 （委員） 青少年のインターネットの安全利用について、チラシ配布だけでなく、学校で講師を招いて指導をされるとよいと思うが、そのような計画はあるか。 （事務局） 青少年育成市民会議の活動で、そのような計画は予定していない。

(委員)

放課後子ども教室について、参加児童の満足度が掲載されているが、実際にどれくらいの参加があったのかご教示願う。また、児童全体に対しての参加状況を把握する必要があると思う。

(事務局)

放課後子ども教室の募集定員は各校20名程度に設定している。実際の参加児童は定員近くまで集まるところもあれば、10名に満たないところもある。

(委員)

募集している児童は、2年生や3年生に限られているが、それはなぜか。

(事務局)

募集を2年生や3年生に限定している理由としては、高学年になると習い事等で忙しく、活動時間の確保が難しいことや、1年生は入学してすぐに活動に取り組むことが難しいという判断から2年生または3年生に限定している。

(委員)

放課後子ども教室で行っているお囃子について、高学年でもやってみたいという子がいる。ぜひ対象者を高学年まで幅を広げていただきたい。

(事務局)

放課後子ども教室の他に、放課後児童クラブがあり、所管が文部科学省と子ども家庭庁で異なるが、国が数年前からそれぞれ2つの事業を連携させる取組をしている。放課後児童クラブは、学年の制限がないため、放課後児童クラブに参加している児童の中で、希望を募ってお囃子に参加していただくという広げ方は可能だと考えているため、検討する。

(委員)

放課後子ども教室について、ボランティア講師のご参画がないと成り立たないと思うが、ボランティア講師の延べ人数や、参加児童の実数等を示していただけると、この事業が年々好調なのか低調なのかを把握しやすいと思う。

(委員)

生涯学習関連施設の整備について、歴史民俗資料館の雨漏りが深刻であると聞いていたが、今回の改修工事により雨漏りの心配はなくなりそうか。

(事務局)

歴史民俗資料館については、令和7年度に外壁東面の改修工事を行った。残りの3面についても改修の予定がある。今後も様子を見ていきたいと考えている。

(委員)

重点施策5－1地域文化振興補助金による団体事業活動への延べ支援数について、令和7年度目標値に対して、実際の支援数が少ないのは、そもそも申請数が8団体しかなかったということか。

(事務局)

そのとおりである。

(委員)

申請の見込みがある団体は、目標値である16団体以上あるという認識でよろしいか。

(事務局)

地域文化補助金は、団体への補助ではなく、事業費に対する補助である。そのため、一つの団体が複数の事業を申請することも有り得る。

(委員)

私が所属している羽島太鼓の団体でもこの補助金を活用し、事業を行っている。事業を行うためには、多額の費用がかかるが、入場料は少額のため、支出負担が大きくなる。そのため、実際の事業にかかった費用に対しての補助があることは大変有難い。

(委員)

重点施策4－4（2）図書資料の充実について、学校で読書の時間に図書館で借りてきた本を読む子もいるし、タブレットで電子書籍を読んでいる子もいる。電子書籍があることで、子どもたちの読書の幅も広がっている。この指標の中には、電子書籍の貸出冊数も

含まれているか。

（事務局）

電子書籍の貸出冊数も含まれている。ただし、読み放題パックの書籍については、閲覧のみのため、冊数に含まれていない。

（委員）

電子書籍が充実しており、借りやすい状態になっている。実際電子書籍を借りる人は増えているのか。また、図書館に来館し本を借りる人と、電子書籍で借りる人の違いはあるか。

（事務局）

電子書籍については、令和5年度に市内小中学校で1人1台ずつ配布されているタブレット端末で利用できる環境を整備し、導入した年度は、電子書籍だけで約8万3000冊の貸出があった。しかし、令和7年度は約4万3000冊で半数ほどに減っている。

一般書籍の貸出冊数は、令和6年度は約27万8000冊、令和7年度は約27万3000冊であり、5000冊ほど減少している。

電子書籍については学校での貸出が9割以上である。中学生の利用が少ないため、中学生にも積極的にご利用いただきたい。

（委員）

図書館のご報告についても、所蔵書数の推移や実際の貸出冊数を示していただくとより分かりやすいと思う。

（委員）

重点目標6－2総合型地域スポーツクラブの加入人数について、単に人数の増減をみるだけでなく、子どもの数が減っているため、加入割合等を分析していく必要があると思う。

（委員）

少子化により総合型地域スポーツクラブに加入する子どもは減少しているが、高齢者の健康意識が高まっており、高齢者向け教室の参加者は増加している。

4 その他

事務局より今年度の各種大会について周知

	5 閉会	以上
--	------	----